

2026年3月のてがたんは当日受付にて実施しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回のてがたんは、4月11日(土)で、テーマは「春の竹を観察しよう」です。ぜひご参加ください。市民スタッフの皆さま、次回の下見は4月5日(日)です。

3月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→ じゃぶじゃぶ池北側の土手→ 水の館東側→ ミニ手賀沼→ 漁協→ 河童像前
- 観察日時/天気：2026年3月14日(土) 10:00~12:00/晴れ
- 参加人数：11名(大人10名、小学生1名)
- 市民スタッフ：8名(石原直子、**伊東茂子**、北村章子、小泉伸夫、弘實さと子、古澤紀元、松田由美子、**湯瀬一栄**)
- 鳥博職員：1名(岩本二郎)

— 観察した生き物の記録 —

下見で見られたものも含む。

【鳥類】カモ科：カルガモ、コガモ / キジ科：キジ / カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ / ハト科：キジバト / ウ科：カワウ / サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ / クイナ科：オオバン / カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ / カワセミ科：カワセミ / キツツキ科：コゲラ / モズ科：モズ / カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス / シジュウカラ科：シジュウカラ / ヒヨドリ科：ヒヨドリ / ウグイス科：ウグイス / エナガ科：エナガ / メジロ科：メジロ / ムクドリ科：ムクドリ / ツグミ科：ツグミ / スズメ科：スズメ / セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ / アトリ科：シメ / ホオジロ科：ホオジロ、アオジ

家禽や外来種：ドバト(ハト科)

【昆虫】アミメカゲロウ目：ウスバカゲロウ(幼虫) / カメムシ目：カメノコロウムシ / チョウ目：チャミノガ(幼虫)、イラガ(まゆ)、ヒロヘリアオイラガ(まゆ)、キタテハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ / カマキリ目：オオカマキリ(卵囊) / コウチュウ目：ヒメアカボシテントウ、ウリハムシ / ハチ目：アリ科の一種

【クモ類】カニグモ科：カニグモ科の一種

【樹の花】バラ科：ユキヤナギ / ヤナギ科：シダレヤナギ / ツバキ科：ツバキのなかま

【草の花】トクサ科：スギナ / ヒガンバナ科：ハナニラ / マメ科：ヤハズエンドウ、イブキノエンドウ / アブラナ科：カラシナ、ナズナ、ミチタネツケバナ、タネツケバナ / オオバコ科：フラサバソウ、オオイヌノフグリ / シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ / キク科：ハルジオン、ウラジロチチコグサ、ヤブタビラコ、オニノゲシ、ノゲシ、セイヨウタンポポ

2026年3月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「気にならない木に春が来た!？」でした。普段は足を止めることが少ない木の前で立ち止まって、葉や花、冬芽などの細部をじっくりと観察しました。ていねいに見ていた分、進むのはゆっくりで、植物観察会ならではの、ゆったりとした時間の流れを体験できました。当日は無風で日差しが暖かく、半袖の参加者もいました。(植物だけでなく)動物についても、カワセミが目の前に飛来し、オスとメスの違いなどをしっかりと観察することができました。



今月の案内人
伊東 茂子さん 湯瀬 一栄さん



①ウスバカゲロウ幼虫の巣(アリジゴク)。



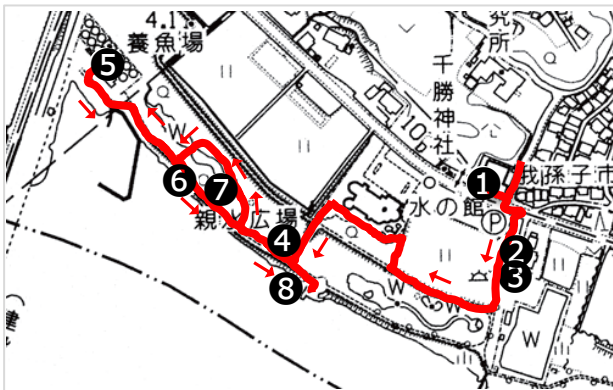
②スギナの胞子茎(つくし)。



③マテバシイの成長する前のどんぐり。



④裏が白いシロダモの葉。



歩いたルートと観察した生き物



⑤ゲッケイジュの葉とチャミノガの幼虫。



⑥シダレヤナギの花。



⑦アオキの花芽。



⑧モズのオス。

今月の鳥 カワセミ (ブッポウソウ目カワセミ科)

「飛ぶ宝石」ともいわれますが、雌雄で外見の異なるキジなどとは異なり、オス・メスともに鮮やかな羽色をしています。雌雄の見分け方は、くちばしが上下ともに黒いのがオスで、上が黒で下がオレンジ色をしているのがメスです。手賀沼ではかつて、水質が著しく悪化した頃には姿を消しましたが、水質が改善された現在では、再び見ることができるようになりました。3月上旬～8月上旬の産卵期には雌雄が一緒に行動する姿がよく見られ、繁殖初期にはオスからメスへの求愛給餌が見られる時もあります。巣は、水辺の近くにある土の崖や土手に横穴を掘り、その中で産卵・抱卵・育雛を行います。親鳥はヒナの糞を巣外へ運び出さず、次の子育ての際には、新しい穴を掘り直すことも、同じ巣穴を使うこともあります。



今回みられたオスのカワセミ
オス メス
くちばしの比較